

# 例会で22年度活動計画決定 約110人参加の講演会も開く 技術士会中国本部建設部会

日本技術士会中国本部建設部会（浅間康史部会長）は18日、2022年度建設部会例会および講演会を広島市中区の第3ウエノヤビルで開いた。例会では22年度の活動計画などを決定。ビヨンドコロナを見据えた建設系技術士のあり方に関する講演も行われた。例会で開会あいさつに立った浅間部会長（中国

地下工業）は「建設部会会員の多くがたずさわる社会資本の整備は、新型コロナウイルスの感染下の中でも災害復旧やi-Constructionなどの対応を含めて着実に進めていく必要がある」とした上で、「本年度も中国本部に在籍する約400人の建設部会会員のニーズをおろそかにしながら、建設部会幹事（26人）の

力を合わせ、技術士の地位向上やCPD機会の創出などに向けて積極的に活動していきたいと考えている」と述べた。その後、21年度における講演会・現場見学会の開催状況や22年度の活動計画などが報告された。22年度もタイムリーな話題提供を目的に、会員の聴講機会拡大が図られるWeb講演会の開催を企

画。部会活動のさらなる活性化をねらいに、ニーズ把握のためのアンケート調査を実施することも盛り込まれた。このほか、この4月から開始された技術士CPD活動実績の管理および活用制度の概要についても説明があった。例会終了後は、講演会も催された。講師を務めた広島大学大学院先進理工系科学研究科の池島優教授は、広島大学や山口大学などで導入されている受験料無料の「EMAT（工学系数学統一試験）の概要」を紹介したほか、「指数関数と逆問題」をテーマに講演。また、グループの山本裕介ブランドマーケティング統括部長は「ビヨンドコロナを見据えてく日本社会・人材・働き方の変化について」を演題に講演し、これから社会に起こる変化などを示した。講演会にはWeb聴講を含めて約110人が参加した。



例会であいさつする浅間部会長

画。部会活動のさらなる活性化をねらいに、ニーズ把握のためのアンケート調査を実施することも盛り込まれた。このほか、この4月から開始された技術士CPD活動実績の管理および活用制度の概要についても説明があった。例会終了後は、講演会も催された。講師を務めた広島大学大学院先進理工系科学研究科の池島優教授は、広島大学や山口大学などで導入されている受験料無料の「EMAT（工学系数学統一試験）の概要」を紹介したほか、「指数関数と逆問題」をテーマに講演。また、グループの山本裕介ブランドマーケティング統括部長は「ビヨンドコロナを見据えてく日本社会・人材・働き方の変化について」を演題に講演し、これから社会に起こる変化などを示した。講演会にはWeb聴講を含めて約110人が参加した。